第12回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

推奨実践事例賞

研究校部門

商業教育の視点に立った金融教育の取組 AL型授業の実践

～奨学金の返還と滞納の問題を考える～

愛媛県・愛媛県立大洲高等学校 教諭　仙波 鉄也

知るぽると
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2015

1. 教科「商業科」としての金融教育への取組

（1）奨学金をテーマにした理由

商業科の目標には、経済社会との関わりの中で、生徒自らに考察させることを通して理解させることの大切さや、日頃から商業の学習活動全体を通してビジネスの諸活動に目を向けさせることの必要性が述べられている。

ある日、「経済活動と法」の授業で、消費者信用についての学習を行っているときに、生徒から「奨学金もローンに含まれるのですか？」という質問を受けた。

そこで、生徒が見いだしたこの課題をクラスの皆で考察する方が教育効果が大きいと確信し、アクティブ・ラーニングの考え方を取り入れることにした。そして、生徒が自らの力を育み、自らの能力を引き出し、主体的に行動できる力が身に付くようにワークショップを行うことにした。

昨今の長引く不況により、奨学金を利用する学生の数が増加していることや雇用状況の悪化等により、返還が滞る学生の数が増加していることから、奨学金の返還と滞納の問題について、生徒と一緒に原因を調査し解決策を考えることにした。

（2）「課題研究」ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成

本校では､昨年度より課題研究「FP（パーソナル･ファイナンシャル･プラニング）講座」を開設している（資料１－１）。生徒一人一人が現実の社会を生き抜いていく上で必要とされる社会的自立力を培うためには、長期的な視点からお金との関わり方を考えることのできる知識や判断能力を身に付ける必要があると考えたためである。ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成は、ライフプランニングで学習する生活設計と家計管理の中で行った。加えて、商業科の各科目に関連する内容が多いことからも、パーソナルファイナンスの学習が商業に関する課題に当てはまると思えたからである。

また、この講座では、ライフプランニングや貯蓄・投資、リスクや保険、税金と社会保障などについて学習し、その成果を確認するために、３級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験を受験させている（資料１－２）。

（3）「経済活動と法」

この科目は、経済事象を法律的に考え適切に判断して行動する能力と態度を育てることや、企業の経済活動について具体的な事例を取り上げ課題を発見させること、法的に考察し判断して行動できるように指導に当たることを目標に掲げている。

加えて、各章にも学習のねらいと目標がある。ここでは、将来の生活設計との関わりを含めて、かしこい消費者であることの意義と消費者信用の実態について理解させるために、生徒が作成したライフイベント表、キャッシュフロー表から読み取れる事柄等について考察を深めていくことにした。

また、大学進学後はほとんどの学生がアルバイトに携わることから、労働契約法や労働三法についての正しい知識を身に付け、計画的にお金を管理していくことの重要性についても理解させることにした。

2. 指導計画及び実施報告

「奨学金の返還と滞納」の問題について考えていく上で、問題の把握と問題の分析を行った。それには、HR 活動（３単位時間)、課題研究（２単位時間)、租税教室（１単位時間）の計６単位時間を用いた（資料２－１、２－２)。

（1）問題の把握と分析

ア　奨学金の滞納の問題に関する記事及び延滞者に関する属性調査結果の確認「HR 活動」

(ｱ)　ハイスクールタイムスの「増え続ける奨学金の滞納」の記事を生徒に読ませ、奨学金の目的や利用者の推移、返還率、未返還額、滞納者情報等について確認した（資料３)。

(ｲ)　平成 24 年度・25 年度の「奨学金の延滞者に関する属性調査」（日本学生支援機構）結果から延滞者の割合や延滞が始まった理由、猶予制度の認知状況等について確認した。

平成 24 年度では、「学校の先生や職員」から奨学金の申請を勧められたと答えている学生が 46.4％で最も多い結果であった。平成 25 年度でも､35.0% の学生が「学校の先生や職員」に奨学金の申請を勧められたと答えており、親（または、祖父母の家族・親戚）の 58.1％に次いで２番目に多いことが分かった。

© 金融広報中央委員会 2015

教師の立場からすると、奨学金は進学の夢を叶(かな)え生徒が自立して学ぶことを支援するためのもの（将来への投資）という見方から申込みを勧めるのであろうが、同時に生徒に借金を負わせることになるという一面にも目を向け、実際に生徒のライフプランを考えて返還計画を立てた上で提案することが肝要であると感じている。

イ　生徒の奨学金予約（日本学生支援機構、JASSO）の申込み状況についての調査・分析「HR 活動」

平成 26 年度卒業生の奨学金利用者数を調査した。本校から上級学校に進学する生徒の多くは、日本学生支援機構から奨学金の貸与を受けている。普通科では進学者数 156 名のうち 72 名（46.2％）、約 2.17 人に一人が利用していることが分かった。一方、商業科では進学者数 32 人中 21 人（65.6％）、約 1.52 人に一人が利用していることが分かり、その利用の多さに驚かされた。全国的に見ると 2.6 人に一人が利用していることからも、奨学金には将来の自分への投資の一面を感じ取ることができる（資料４）。

ウ　生徒の実態を把握するためのアンケートの実施・分析及び利息の計算「HR 活動」

(ｱ)　アンケートでは、ローンと聞いて思い浮かべるもの（家、車、バイク、借金、消費者金融、奨学金など）やマイホーム、車の購入資金はいくらぐらい必要か、１か月の給料はいくらぐらいもらえるのかなど、生徒の金銭感覚を確認することにした。加えて、生徒が、毎月いくらぐらいの奨学金を借りようとしているのか、何年ぐらいかけて返還しようとしているのかを確認することにした（資料５）。

アンケート結果をもとに返還シミュレーションを行い、奨学金の貸与総額、返還総額、利息総額、１年間・１か月の利息を求めた。その結果、奨学金の１か月の貸与希望金額は￥50,000、返還期間は 15 年以内、利息３％（上限）で返還計画を立てることにした（日本学生支援機構の奨学金の返還例参照）（資料６－１、６－２）。

(ｲ)　金利と利息の違いについて確認した。元利均等返済方式による計算「お金を借りた場合の利息を計算してみよう」では、毎月の支払いにおける元金と利息の変化について考察しながら、返済方法の特徴を理解させた（資料７）。

エ　アルバイトと税金及びアルバイトと労働契約の確認「租税教室・HR 活動」

(ｱ)　租税教室で、平成 26 年度分所得税及び復興特別所得税の確定申告の手引き「確定申告書Ａ用」を用いて申告書の記入を行った（資料８）。その中で、勤労学生控除や扶養控除などの所得から差し引かれる金額（所得控除）の計算を行い、控除の概要や控除金額、最低賃金、アルバイトと税金の関係について学習した。アルバイトをすると税金がいくらかかるのか、また、アルバイトをし過ぎるとどのような影響が表れるのかを確認した。

(ｲ)　近年、過重な勤務やノルマを強いられ学業に支障を与える「ブラックバイト」が社会問題になっている。その被害は、高校生にも広がりを見せていることからも、労働基準法や就業規則、労働契約にふれて、労働についての正しい知識を持たせる必要があると感じている。

オ　月別収支一覧表、ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成「課題研究」

何のために奨学金を借りるのか。借りる目的を明確にするとともに、確実に返還するために返還計画を立てることにした。奨学金の返還には、10 年以上かかる。そのために、月別収支一覧表やライフイベント表、キャッシュフロー表を作成し、10 年後、20 年後の自分の姿を思い浮かべて、自分がどのように生きたいのか、どのような働き方や暮らし方がしたいのかを考えさせることにした。

（２）実践　ワークショップ「経済活動と法」

ワークショップ（資料９）では、ビジネスの諸活動に目を向け、経済社会との関わりの中で生徒自身に考察させるために、自分が金融機関で仕事をしている立場でアドバイスを行う場面を設定した。また、ワークショップで用いるライフイベント表、キャッシュフロー表は、生徒自らが作成したもの（資料 10 －１、10 －２）を使う方が学習効果が大きいと考えた。長期間に渡る返還が、自分自身のライフプランにどのように影響してくるのかを確かめ、イベントや金額などを修正しながらシミュレーションしていく中で生活設計や家計管理がしっかり行え、自立した生活を送ることのできる消費者としての理解を深めることができるからである。

生徒の中には、資産運用に興味・関心を示している者も少なくない。資産運用については、現在、国が推奨していることもあり、将来の備えとして、例えば、NISA（少額投資非課税制度）や 401K（確定拠出年金）などにも目を向けさせることが大切であると考えている。また、リスクに備えて分散投資（資産分散、時間分散、通貨分散）の重要性について指導している。

どの生徒からも、ワークショップに関心を示し、主体的に取り組んでいる様子が窺(うかが)えた（資料 11 －１）。

© 金融広報中央委員会 2015

（3）振り返り

学習内容を定着させる一つの方法として、感想文を書かせることにした。感想文を書くことによって、学習内容を思い起こし、話し合いの中で印象に残ったことやこれからの学習に生かしたいことに気づき、それにより生徒の学び方や取り組む姿勢が一段と成長していくように感じている。

それは、ワークショップを終えてからの生徒の様子にも変化が表れ、将来を見通した言動が感じられるようになったことからも窺うことができる（資料 11 －２）。

（生徒の学習後の変化）
・目的意識を持って進学を考える生徒が増えた。進路相談の内容が現実味を帯びてきた。
・奨学金の形態や種類、進学にかかる費用について、自ら進んで調べるようになった。
・お金を管理する生徒が増えた。（例）小遣い帳を付けるなど。
・親との会話が増えた。
・自分の家の経済力を把握する生徒が増えた。

（4）返還を滞納した場合の措置「経済活動と法」

ここでは、「経済活動と法」の目標である、経済事象を法律的に考え適切に判断する力を身に付けるために人的保証制度と機関保証制度について学習した。

奨学金の申込時には、人的保証制度または機関保証制度のいずれかを届け出る必要があり、「個人信用情報の取扱いに関する同意書」の提出が義務づけられている。返還が滞ると、延滞中のみならず返還完了後５年間は個人信用情報機関に登録され、この間はクレジットカードが使えなくなったり、ローンが組めなくなったりなど将来のライフプランに大きな影響を及ぼすことになる。

そのためにも、奨学金の滞納が経済生活に与える影響について考察を深め、信用と責任について理解させることが大切であると考えた。あわせて、契約の成立と無効・取消、契約の効力についても改めて触れることで、奨学金が生徒にとって初めて行う要物契約（金銭消費貸借）であることを認識させることにした。

３．成果と課題

（1）成果

ア　自分の将来をシミュレーションすることで、よりよい人生を送るための考え抜く力が養われたと思う。自分でライフプランを設計できるようになったことにより、長期的な視点からお金との関わりを推測できるようになったと感じている。

イ　金融教育の年齢層別目標を達成していくことにより、発達段階に応じた金融リテラシーが身に付き、世の中が抱える諸問題の解決に向けて効果を発揮すると思う。

ウ　お金を計画的に管理する知識が身に付き、問題解決能力等が伸長してきたと思える。

エ　今、学んでいることは将来に結びついていることに気付き、企業の経済活動に目を向けながら、自分の将来について真剣に考える様子が窺えるようになった。自ら学ぶ姿勢と自立して生活できる力が養われてきたように感じている。

（2）課題

ア　ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成に時間が掛かる。ライフイベント表、キャッシュフロー表を作ることが目的ではないが、生徒自らが作った表を活用した方がお金の動きが分かり、より考察を深めることができる。その結果、ワークショップにも主体的に取り組むことができると思う。

イ　他教科との連携や担任、学年団との協力が必要である。そのため、金融教育への取組みの意識が低いと難しいといえる。

ウ　金融教育、商業教育、消費者教育のどこに重点を置いて指導すべきか、目標やねらいを明確にする必要がある。商業科で取り組む場合は、教科の目標・科目の学習のねらいから外れないように注意する必要がある。

エ　資産運用については、将来の備えとして目を向けさせることが大切であると考えている。しかし、資産運用はリスクを伴うため、高校生に教える場合どの程度まで教えるべきか模索しているところである。

© 金融広報中央委員会 2015

4．まとめ

次期学習指導要領では、主体的に学ぶ態度や課題解決型の能力を育成することに主眼が置かれ、社会に開かれた教育課程としての役割が期待されている。そこで、何をどのように学ぶのか実社会での具体的事例を用いながら、生徒が主体的に課題を見つけて解を協働して見いだしていくアクティブ・ラーニングの考え方を授業に取り入れることにした。

今回の主題である「奨学金の返還と滞納」は、生徒にとって初めての借金でもあることから、生徒一人一人に身近に感じさせるためにワークショップを取り入れた。生徒自らが主体的に問題に向き合い、思考を深め協力しながら新たな気付きや価値を生み出していくことは、新しい学びへの意欲を育む契機になると考えたからだ。

『学校における金融教育の年齢層別目標』（金融広報中央委員会）の中には、高校卒業までに社会の中で生きるために必要な力として身に付けさせたい目標が掲げられている。商業科で取り組む場合は、教科・科目の目標を理解した上で、商業教育の視点に立ち、企業の立場から金融教育を考えることが大切であると考えた。

商業科生徒にとって、生涯に渡って自ら学んでいく上で必要となる学力や職業分野での基本となる技術・技能などの専門職業人としての基盤を確実に身に付けることの重要性が増してきている。さらに、生徒一人一人の社会的自立を図るために職業体験等のキャリア教育の実践を通して、自分にあった働き方を具体的にイメージし、よりよい人生を送るための考える力や態度を育むことが望ましいといわれている。

今回の実践は、コミュニケーション力を高めることはもちろんのこと、卒業後自立して生活を送る生徒にとって大いに役立つものであると確信している。

今後も、生徒一人一人が自分の将来について経済課題を考察しながら、的確に意思決定することのできる力を養成していきたいと思っている。

© 金融広報中央委員会 2015

資料１－１　課題研究「FP（パーソナル・ファイナンシャル・プランニング）講座」学習指導計画実施表（概要）

月	指導内容
4～6月	・FP 講座のガイダンス ・パーソナルファイナンスの重要性、職業選択、消費者トラブル、ライフプランなどを中心に学習 ・産学官連携を取り入れた外部講師による出前授業（☆下表） ・ライフイベント表、家計予算表の作成（ワークショップ）
7・8月	・３級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験対策 （ライフプランニングと資金計画、リスク管理、金融資産運用、タックスプランニング、 不動産、相続・事業継承を中心に学習）
9～11月	・検定試験（１回目） ・租税教室、年金セミナー、社会保険労務士による出前授業 ・ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成
12～1月	・プレゼンテーション資料の製作と発表 ・検定試験（２回目） ・まとめ

この講座では、教科指導に加えてキャリア教育や金融教育、パーソナルファイナンス教育の学習内容を取り入れながら調査研究を進めている。いずれも商業教育との関わりが深いことから、教科指導の仕方や授業の組み立て方に、それぞれの教育の特色を取り入れることに心掛けている。例えば、自立した生活を送るためには 10 年先、20 年先のライフプランを予測し、それについて考察することが望ましいと考え、キャッシュフロー表やライフイベント表の作成を行っている。自分の将来をシミュレーションすることにより、働き方を含めてよりよい人生を送るための考え抜く力が養われ、若者の早期離職の問題を始め多重債務や自己破産、金融トラブルの被害など世の中が抱えている様々な問題に対しても効果があると思える。いずれの生徒からも自分の将来について真剣に考え、関心を持って主体的に調査していく様子が窺えるようになった。

その結果、学習意欲が向上し、思考力・判断力・表現力や問題解決能力などが伸長してきたと感じている。

（☆）産学官連携を取り入れた外部講師による出前授業（概要）

回	学習内容
1	生活設計　～長期的な経済計画～ 人生の設計図／ライフイベント表の作成／資金準備方法の検討 （課題：ライフイベント表を完成させる）
2	ライフプランに基づく各班での話し合い及び発表 自分の将来像／イメージとのギャップ
3	家計管理　～短期的な経済計画～ 家計管理の必要姓／支出と費目／一人暮らしを想定した家計予算表の作成／地域別生活費の平均データとの比較 （課題：家計予算表を完成させる）
4	家計予算表に基づく各班での話し合い及び発表 今現在の家計管理方法の見直し／改善策の検討
5	消費生活トラブル①　ワンクリック詐欺とマルチ商法「大洲警察署生活安全課」による講義
6	金融トラブルに関するディスカッション① 自分、家族、周囲の人々が被害に遭わないための対策
7	消費生活トラブル②　消費者市民入門講座「大洲市商工産業課」による講義
8	金融トラブルに関するディスカッション② 自分、家族、周囲の人々が被害に遭わないための対策
9	契約と信用
10	二者間契約・三者間契約／ローン・クレジットのメリットとデメリット
11	ローン・クレジット利用時の留意点／個人信用情報機関
12	金利と利息／利息計算／返済の仕組み（一括・分割・リボ払い）

教育効果を高めるために、社会総がかりの学校教育支援推進事業「えひめ学校教育サポーター企業」による教育支援活動を活用して、金融や消費者トラブルの専門家による出前授業を受けた。実際の経済社会で起こっている生きた教材を用いながら学習を積み重ねることにより、想像力を膨らませながら生徒自らが活用できる知識や技術が養われると感じている。

© 金融広報中央委員会 2015

資料１－２　商業科目と３級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験の関連する内容

商業科の科目	関連する内容	技能検定試験の範囲
ビジネス基礎	・資金計画を立てる際の６つの係数（終価係数、現価係数、年金終価係数、減債基金係数、資本回収係数、年金現価係数） ・住宅ローン金利（元利均等返済と元金均等返済）、社会保険	ライフプランニングと資金計画
	・保険の基本、生命保険、損害保険、第三分野の保険	リスク管理
	・外貨建て金融商品（為替レート） ・貯蓄型金融商品（利率と利回り、単利と複利）	金融資産運用
	・各所得の計算（給与所得） ・税額の計算と所得控除	タックスプランニング
簿記	・バランスシート ・事業所得（減価償却）	ライフプランニングと資金計画 タックスプランニング
財務会計Ⅰ	・キャッシュフロー計算書	ライフプランニングと資金計画
財務会計Ⅱ	・株式（株式投資に用いる指標） ・外貨建て金融商品（為替）	金融資産運用
ビジネス経済	・金融・経済の基本 ・ポートフォーリオとデリバティブ取引	金融資産運用
ビジネス経済応用	・金融・経済の基本 ・セーフティネットと関連法規 ・貯蓄型金融商品、債券、株式 ・投資信託、外貨建て金融商品 ・ポートフォーリオとデリバティブ取引	金融資産運用
経済活動と法	・保険の基本、損害保険	リスク管理
	・不動産の基本、取引 ・不動産に関する法令	不動産
	・相続の基本、相続税	相続・事業継承

職業資格取得の指導については、検定試験を意識した学習が生徒の達成感や成就感を満たし、それがきっかけとなってさらに学習意欲が高まることが期待できると思える。

© 金融広報中央委員会 2015

資料２－１　指導計画Ⅰ(全体)

指導手順	実施科目等
1 奨学金の滞納の問題に関する記事及び延滞者に関する属性調査結果の確認	HR 活動
↓	
2 生徒の奨学金予約（日本学生支援機構）の申込み状況について調査・分析 生徒の実態を把握するためにアンケートの実施・分析及び利息の計算	HR 活動
↓	
3 アルバイトと税金及びアルバイトと労働契約の確認	租税教室、HR 活動
↓	
4 月別収支一覧表、ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成	課題研究「FP 講座」
↓	
5 消費者信用：ワークショップ 〜奨学金の返還と滞納〜	経済活動と法
↓	
6 返還を滞納した場合の措置	経済活動と法

資料２－２　指導計画Ⅱ（実施科目等）

1　HR 活動

一班６〜７名で、６班に分かれてグループワーク形式で行った。

【評価規準】（関心・意欲・態度）
- テーマに関心を持ち、積極的に話し合いに参加しているか。
- 建設的な意見を述べているか。
- 他人の意見にしっかりと耳を傾けることができているか。
- リーダーシップが取れているか。
- 自分の役割を理解して取り組めているか。

【評価方法】
- 観察（ワークショップでの話し合いや発表）により評価する。
- ワークシートへの記入から評価する。
- 感想文から評価する。

（１）奨学金の滞納の問題に関する記事及び延滞者に関する属性調査結果の確認（１単位時間－ 50 分）

（学習活動）
- 「増え続ける奨学金の滞納」の記事を読み、グラフを分析する。（５分）（資料３）
- 平成 25 年度と平成 24 年度の調査結果に目を通す。（５分）
- 記事やグラフ、調査結果から読み取れることを自分の意見としてまとめる。（10 分）
- 班内で意見を出し合う。（10 分）
- 班別に発表を行う。（15 分）
- 全体のまとめを行う。（５分）

【評価規準】（知識・理解）
- 奨学金の目的、形態や種類について理解しているか。
- 日本学生支援機構による返還額の回収のための督促について理解しているか。
- 返還が滞る理由について理解しているか。
- 奨学金の滞納で悩まないための心構えについて理解しているか。

© 金融広報中央委員会 2015

（2）生徒の奨学金予約（日本学生支援機構）の申込み状況について調査・分析

生徒の実態を把握するためにアンケートの実施・分析及び利息の計算（1単位時間－50分）

（学習活動）

・昨年度の卒業生の奨学金申込み状況を確認する。（5分）
・アンケート結果を示す。（10分）（資料5）
・アンケート結果をもとにした、返還シミュレーションを行う。（5分）（資料6－1）
・返還シミュレーションから気が付いたことを発表させる。（15分）
・金利と利息の違いを理解し、元利均等返済方式の計算問題を解く。（15分）

【評価規準】（知識・理解）

・貸与総額と返還総額から利息の大きさを把握でき、生活に与える影響について理解しているか。
・金利と利息の違いについて理解しているか。
・元利均等返済方式の返済方法の特徴について理解しているか（資料7）。

（3）アルバイトと税金及びアルバイトと労働契約の確認（1単位時間－50分）

（学習活動）

・租税教育で学んだ所得控除について復習する。（10分）
・最低賃金の確認をする。（5分）
・アルバイトと税金の関係について理解する。（20分）
・アルバイトをする前に、会社に確認しておくべき事柄について意見を出し合う。（15分）

【評価規準】（知識・理解）

・所得控除の計算について理解しているか。
・控除の概要や控除金額について理解しているか。
・最低賃金について理解しているか。
・年間収入が103万円を超えたときの税金、扶養に関わる影響について理解しているか。
・労働条件通知書や労働契約・就業規則について、正しい知識を身に付けることができているか。

2　課題研究

（1）ライフイベント表、キャッシュフロー表の役割とポイント

・ライフイベント表、キャッシュフロー表を作成することにより、お金の動きが分かる。それにより、無理や無駄が見えてくることで効率的な人生を送ることができる。
・キャッシュフロー表上で色々と試算をしたり、見直しをしたりすることができる。
・夢や目標、生活環境や家族構成、収入の変化に応じて、定期的に見直すことが大切である。
・ライフプラン（生活設計）の力を身に付けることが大切である。

（2）月別収支一覧表、ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成

ア　高校を卒業した翌年の月別収支一覧表の作成　（資料10－1）

『暮らしと金融なんでもデータ』（金融広報中央委員会）等を参照しながら、月ごとの収入・支出金額を計算し、年間合計額をライフイベント表、キャッシュフロー表の1年後の欄に転記する。

イ　ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成　（資料10－2）

(ｱ)『暮らしと金融なんでもデータ』と『学生生活マネー＆キャリアお役立ちハンドブック！』（日本ファイナンシャル・プランナーズ協会）を参考にする。

(ｲ) 年齢（自分及び家族）を記入する。

(ｳ) 自分自身や家族のライフイベントを想像しながら記入する。

(ｴ) 2019年まで(奨学金貸与中)の収入、支出、年間収支、貯蓄残高を計算する。

※ ここで、大学在学中の年間収支がマイナスになっている生徒がいた場合は、どのようにすれば貯蓄残高をプ

© 金融広報中央委員会 2015

ラスにできるかを考えさせることが大切である。奨学金を借りているにもかかわらず貯蓄残高がマイナスになっていては返還が滞る原因にもなるので、ライフイベントやキャッシュフローの見直しが必要である。

(ｵ) 2020年以降(奨学金の返還開始)の収入、支出、年間収支、貯蓄残高を記入する。

a「収入」欄の作成

b「支出」欄の作成

※ 奨学金の返還額を記入する。

※ 通常、消費支出の内訳は細かく分類させているので生徒にとって分かりづらい。そこで、支出内訳に「イベント費用」を設けて記入しやすいように工夫した。

※ ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成が目的ではないが、これが作成できないとワークショップを行っても考察を深めることが難しいと思える。

3　経済活動と法

（1）商業科（経済活動と法）学習指導案

ア　単　元　　6章　企業の責任と法

イ　教科書　　『経済活動と法』（実教出版）

ウ　指導目標

- かしこい消費者であることの意義や消費者を保護し安全を確保するための法律の存在を事例から学び理解させる。
- 色々な販売方法の態様と消費者としての心構えを理解させる。
- 消費者信用の実態について、将来の生活設計との関わりを含めて理解させる。
- 悪徳商法の実態を学習させ、対応すべきあり方を理解させる。

エ　指導計画

2●消費者と法･･･かしこい消費者であるために

1 消費者の保護に関する法律

2 消費者の安全

3 生活に身近な特殊売買

4 消費者信用・・・・・・・・・・・3時間　ワークショップ：～奨学金の返還と滞納～（本時はその3）

5 販売方法の多様化と消費者の保護

オ　本時の主題

奨学金の返還と滞納の問題を考える。

カ　前時の課題

ライフイベント表、キャッシュフロー表を見て、どのような問題点があり、どのような対策をとればよいか書き出しておく。

キ　本時の目標

(ｱ) 月賦返還額と返還期間が生活に与える影響について考察を深め、奨学金を上手に利用するための要点について把握させる。

(ｲ) 貸与とは「借金」であり、個人の信用にもとづいていることを強調し、信用の大切さを具体的事例を通して理解させる。

© 金融広報中央委員会 2015

ク　１単位時間（50分）の指導過程

	学習活動	時間	指導上の留意事項	評価規準・方法等
導入	・本時の学習内容と課題を確認する。	5（分）	・本時の主題と目標、設問の意味を理解させてから取り組ませる。	・プリント（ライフイベント表、キャッシュフロー表）
展開	１ ワークショップによりグループで話し合い、考察する。 (1) 個別の意見 (2) 班別討議 (3) 整理とまとめ (4) 班別発表 ２ 滞納した場合の措置について理解する。	35 5	・奨学金を借りる前と借りた後で気を付けたらよいことを考えさせる。 ・キャッシュフロー表から収入や支出の概要を把握し、貯蓄残高が目減りする原因やそれを防ぐ方法について考えさせる。 ・返還額の占める大きさや期間等が、生活に与える影響と対策について考えさせる。 ・意見が出やすいように、気軽に発言できる雰囲気を作る。 ・各自の意見やアイディアをグループ化し、論理的考察を加えて問題解決の道筋を明らかにさせる。 ・信用と責任について理解させ、経済生活に与える影響について考察させる。	【評価規準】 ○月賦返還額と返還期間が生活に与える影響について考察を深め、奨学金を上手に利用するために導き出した考えを表現している。 （思考・判断・表現） 【評価方法】 ○ワークショップでの話し合いや発表及びワークシートへの記入から評価する。 （観察及びワークシート） 【評価規準】 ○ワークショップに積極的に関わり、主体的に課題を解決しようとしている。 （関心・意欲・態度）
整理	１ 本時のまとめをする。 ２ 課題の指示と次時の学習内容を確認する。	5	・本時の要点を確認させる。 ・感想文を書かせ、本時の内容を定着させる。	

（２）ワークショップ

ア　班の構成と役割分担

各班６人程度、班長１名、記録１名、発表１名

イ　場面設定

＜設問＞

> 高校在学中に、３級ファイナンシャルプランニング技能検定試験に合格したあなたは、卒業後地元の銀行に就職しました。ある日、高校生を伴って銀行を訪れた親から、教育ローンの説明を聞きたいと言われました。
> 高校生からは、「親に負担をかけたくないので、奨学金を借りて大学へ進学したいと思っている。しかし、確実に返還できるかどうか心配で、借りるべきかどうか迷っている。そこで、アドバイスをもらえないだろうか。」という相談を受けました。
> さて、あなたはこの高校生に対して、どのようなアドバイスをしますか？

奨学金の貸与条件は、次の通りである。

（１）日本学生支援機構から第２種の奨学金を、利率３％で毎月￥50,000ずつ４年間に渡って借りる。

（２）返還期間　15年

ウ　展開の仕方　（資料９の１）

(ｱ) 個人の意見を書き出す資料（資料９の２）

次のような具体的な質問を投げかけることで、意見が出やすいように工夫をした。

Ｑ１：キャッシュフロー表から読み取れる事柄について想像してみよう。

Ｑ２：貯蓄残高が目減りする原因やそれを防ぐ方法について考えてみよう。

Ｑ３：奨学金を借りる前と借りた後で気を付けたらよいことを考えてみよう。

以上のことから、奨学金を上手に利用するために必要なことについて、長期間に渡る奨学金の返還が生活に与える影

© 金融広報中央委員会 2015

響とその対策について考察を深めていった。

(ｲ) 班別討議を行う（資料９の３）

お互いの意見を交換しながら、考察を深めていく。全ての意見が出尽くしたら、グループ化したものをマジックで囲み、何についての意見の集まりなのかを記入しておくとまとめやすい。

(ｳ) 整理とまとめを行う（資料９の４）

グループの意見をまとめて模造紙に書き出す。

(ｴ) 班別発表を行う（資料９の４）

（３）返還を滞納した場合の措置「経済活動と法」

学習を通して、経済生活に与える影響について考察を深め、信用と責任について理解させることが大切であると考えた。ワークショップ後は、ア のみを実施し、残りは次の時間に実施した。

ア 「平成 28 年度入学者用奨学金案内」の中にある保証制度や個人信用情報機関等について確認する。

イ ６章２●消費者と法 の中の４ 消費者信用 の復習をする。（多重債務や自己破産）

ウ ３章１●財産権と契約そしてその保護 の復習をする。（契約の成立と無効・取消、契約の効力）

エ 平成 26 年度に全国商業高等学校協会が実施した商業経済検定試験の経済活動と法の問題 8 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度についての問題を解かせる（資料 12）。

© 金融広報中央委員会 2015

資料３　奨学金の現状と課題

増え続ける奨学金の滞納

将来を見通し、奨学金の有効活用を

長引く不況で保護者からの仕送りが減り、奨学金を利用する学生が増えています。奨学金は成績優秀者など一部を除き、卒業後に返還しなければなりません。しかし、雇用状況の悪化などで、卒業しても十分収入が得られず、返済が滞るケースが増えています。この奨学金の滞納問題が大きな問題になっています。

奨学金の形態や種類

奨学金は、卒業後に返還義務のない「給付型」と、返還しなければならない「貸与型」に大別できます。さらに、貸与型には利息が付くものと、付かないものがあります。奨学金を運営する団体として、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）や、地方自治体、大学などの教育機関、民間の育英団体などがあります。

この中で、最大の規模を誇るのがJASSOで、大学・短期大学・高等専門学校・専修学校および大学院生を対象に奨学金貸与事業を行っています。地方自治体の奨学金は、保護者がその地方在住であることを条件に奨学金制度を設けています。その中心になっているのが貸与型です。

国公立・私立大を問わず、各大学には独自の奨学金制度が設けられています。その種類は給付型や貸与型、また、入試の成績優秀者には特待生制度や学費減免制度を設けるなど、大半の大学は複数の奨学金制度を導入しています。民間でも各種育英団体や企業、病院などで奨学金制度を設けています。新聞奨学生制度などもこの中に入ります。

教育を受ける権利を保障するために

JASSOは2004年、日本育英会、日本国際教育協会、内外学生センター、国際学友会、関西国際学友会が合併し、独立行政法人として誕生しました。

憲法26条で、"国民は等しく教育を受ける権利を有する"と明記され、教育基本法にも、"国及び地方公共団体は、能力があるにも関わらず、経済的理由で修学が困難な者に対し、奨学の措置を講じなければならない"と記されています。こうした国の方針に基づいて、JASSOは学費の貸与などといった奨学金貸与事業、さらに留学生支援事業や学生生活支援事業などを行っています。

奨学金の利用者がこの10年で1.5倍

JASSOの奨学金には、無利息の第一種奨学金と利息が付く第二種奨学金があります。長引く不況で、奨学金への依存度が高まり、2003年の貸与人数が約86万人だったものが、2012年では約134万人にも達し、この10年間で約1.5倍にも拡大しています。これは、大学生の約3人に1人、大学院生の約2.5人に1人の割合で利用していることになります。

なかでも、1999年以降、成績や経済状況など条件が厳しい第一種に比べ、比較的穏やかな第二種奨学金を利用する学生が急速に増加しています。その貸し出し総額は、2012年で1兆1263億円にも達しています。奨学金制度とは、学生が自立して学ぶことを支援する制度で、学生が卒業後に返還した奨学金が、次の世代に利用されるというものです。この運転資金ともいうべき、貸与された奨学金の返還が円滑に進んでいないのが現状です。

2010年度の未返還額は約850億円

JASSOの2010年度の奨学金貸与事業で、元奨学生からの返還予定額は第一種・第二種合わせて4384億円です。しかし、実際に返還されたのは3532億円で、852億円が未返還となっています。元奨学生の約34万人の返還が滞り、返還率は80.6%となっています。

JASSOでは、回収強化のために電話や自宅・勤務先訪問などさまざまな督促を行っています。2010年度からは、3カ月以上の滞納者の情報を個人信用情報機関に提供しています。登録されると、クレジットカードや住宅ローンの利用が制限されるため、「ブラックリスト化」と呼ばれます。一旦登録されると、全ての返済を終えても5年間は継続して登録されます。2010年度の登録件数は4469件で、翌年には１万件を超え、それ以降も増え続けています。

さらに、滞納が９カ月以上になると、JASSOは返還を求めて裁判所に督促を申し立てます。その件数は2006年度の1181件から、毎年のように増加しています。

奨学金の滞納で悩まないために

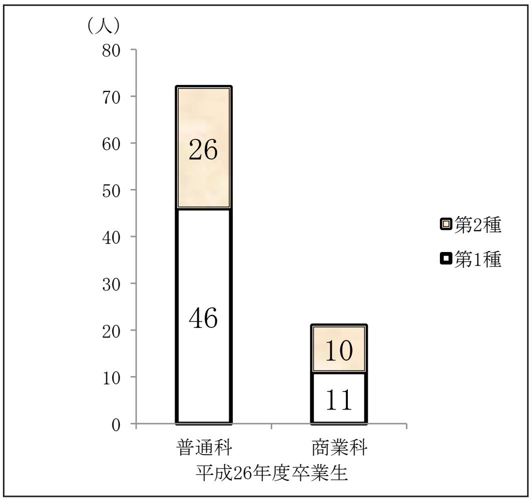
奨学金は保護者にあまり負担をかけず、貴重な学生生活をアルバイトに明け暮れることなく過ごせる大変ありがたいものです。しかし、将来設計も曖昧なまま安易に奨学金を借りると、紹介したような困難な事態に陥ります。奨学金の返還は、卒業の半年後から最長20年かけて毎月返還していかなければなりません。つまり、卒業後にきちんと就職し、安定した収入を得ないと返済が滞ることになりかねません。

奨学金の申し込みは、高校在学中に申し込む予約採用と進学後に申し込む在学採用があります。現在、高校生の予約採用が急増しており、なかには友人が申し込んだからという安易な理由で申し込む人もいるようです。奨学金は、学生が背負う大きな借金であることに間違いありません。奨学金を申請する時は、将来の自分の姿をしっかり見据え、奨学金の「借り方」だけでなく、「返し方」についても慎重に考えなければなりません。

◆奨学金事業予算の推移

出典：ハイスクールタイムス（2013 年　第９巻第２号）

資料４　本校生徒の奨学金の学科別利用者数



資料５　生徒アンケートの結果（H26 年度実施）

「経済活動と法」消費金融に関するアンケート

３年生商業科４０名（男子２３名、女子１７名）

1　あなたは「ローン」と聞いて何を思い浮かべますか。（複数回答可）

マイホーム	３８人
車	２５人
バイク	６人
借金	１５人
消費者金融	２人
奨学金	８人

2　他に、思い浮かぶものがあれば記入してください。

（　教育ローン、カードローン　）

3　次のものを購入するのにいくらぐらい必要だと思いますか。

	最高金額	最低金額
マイホーム	５,０００ 万円	１,０００ 万円
車	５００ 万円	７０ 万円

4　給料（高校卒業）は、いくらぐらいもらえると思いますか。

	最高金額	最低金額
給料（高卒）	２０ 万円	１０ 万円

5　あなたは、日本学生支援機構の奨学金を知っていますか。

知っている　３８人　　知らない　２人

6　あなたは、進学希望ですか、それとも就職希望ですか。

進学　３２人　　就職　８人

7．進学する際に、この奨学金を借りるつもりですか。

借りる　２４人　　借りない　８人

8．「**借りる**」と答えた人に質問します。

（１）なぜ、借りようと思ったのですか。

進学をして、勉強に励みたいと思ったから。

家計が苦しいから、家計のことを考えて。

親の負担を少しでも軽減したいから。今後兄弟も進学して、支出が増えるから。

２人の姉も大学に進学しており、**親の収入も少なく負担をかけたくない**から。

両親は共働きだが**収入が少なく**、さらに兄も私立大学に進学しているから。

親の収入が不安定で、姉も専門学校に在籍していて、自分も四年制大学に行きたいので、経済的に苦しい状況にあるから。

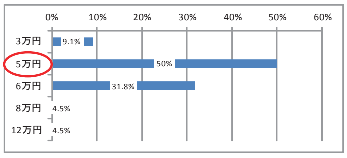
生活費のため。何かあったときのために、お金が支払えないといけないから。

親に言われたから。利息がかからない奨学金があるから。

（２）いくらぐらい、借りる予定ですか。（１か月の金額）

①	（　３　）万円	（　２　）人
②	（　５　）万円	（　１１　）人
③	（　６　）万円	（　７　）人
④	（　８　）万円	（　１　）人
⑤	（　１２　）万円	（　１　）人

分からない　２人



9．奨学金は、「**借金**」だと思いますか。それとも「**お小遣い**」だと思いますか。

借金だ　３８人　　小遣いだ　１人　　分からない　１人

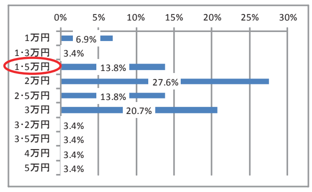
１０．第２種奨学金には、返還時に**利息**が必要なことを知っていますか。

知っている　３４人　　知らない　６人

１１．大学などを卒業後に返還が始まりますが、１か月いくらなら返還できますか。

①	（　１　）万円	（　２　）人	⑥	（　３　）万円	（　６　）人
②	（　１.３　）万円	（　１　）人	⑦	（　３.２　）万円	（　１　）人
③	（　１.５　）万円	（　４　）人	⑧	（　３.５　）万円	（　１　）人
④	（　２　）万円	（　８　）人	⑨	（　４　）万円	（　１　）人
⑤	（　２.５　）万円	（　４　）人	⑩	（　５　）万円	（　１　）人

分からない　１１人



© 金融広報中央委員会 2015

資料６－１　返還シミュレーションによる返還例

返還例(第二種奨学金)

貸与総額	貸与利率	返還総額
2,400,000 円	3.0 %	3,018,568 円
月賦返還額	**返還回数（年）**	**返還期間**
16,769 円	180 回（15 年）	2019 年 10 月～2034 年 9 月

(注)利率は3.0%を超えないよう、政令で定められています。平成27年度3月末貸与修了者に適用される利率（利率固定方式）は0.63%です。

出典:日本学生支援機構「ホームページ」より

貸与総額と返還総額から何が分かるか、確かめてみよう！（日本学生支援機構の返還例参照）

貸与総額（¥ 2,400,000 ）→　返還総額（¥ 3,018,568 ）返還年数（ 15 年）
（端数切り捨て）　（端数切り捨て）

1 年間の返還額（¥ 201,228）　1 か月の返還額（¥16,769）

利息総額（¥ 618,568 ）1 年間の利息（¥ 41,237 ）1 か月の利息（¥ 3,436 ）
（端数切り捨て）　（端数切り捨て）

資料６－２　ワークシート（生徒作品）

1　貸与総額と返還総額から何が伺えるか？

貸与総額（¥ 2,400,000 ）→　返還総額（¥ 3,018,568 ）

利息総額（¥ 618,568）1 年間の利息（¥ 41,237）1 か月の利息（¥ 3,436）

月賦返還額（¥16,769）÷15年　÷12か月↓

皆さんの、1 か月のお小遣いと同じ金額

2　月賦返還額と返還回数（期間）から何が伺えるか？（ライフイベント表参照）

車や家を買うとローンを組まなければならない。
結婚式などもあれば、多額の支出になる。

3　奨学金を上手に利用するために大切なこと（ワークショップ）

（お金を借りる前に、本当に必要かどうかよく考える。
お金を借りることは、自分のライフプランに大きくかかわってくる。）
※お金を借りる前に確かな返還計画を立てて、返還可能な金額を借りることが大切である。
※お金をどこから借りるのか。金利がいくらかかるのかしっかり確めておく。

4　この授業で、理解できたこと。

借りたものは必ず返す。　利用目的を考えて使用する。
借りすぎない。　無駄遣いをしない。
利用額・返還額を考えて借りる。　借金だということを頭においておく。

資料７　元利均等返済方式による計算（生徒作品）

お金を借りるときの利息（計算）

『お金を借りた場合の利息を計算してみよう』

❶ 30万円を金利18%(年)の元利均等返済で借り入れた。下表の空欄に計算した結果を記入しよう。なお、1円以下の端数は切捨てること。また、1ヵ月は1年の12分の1として計算すること。

借入金	30万円
月々返済額	1万円
利率（年）	18%

<計算方法>
月々返済額(A):毎回10,000円
利息額(B):借入金残高(D)×金利(年)／12
元金返済額(C):月々返済額(A)−利息額(B)
借入金残高(D):前回借入金残高−元金返済額(C)

第1回
返済額:10,000円(A)
利息額:(D)×金利(年)／12=(B)より、
300,000円×18%／12=4,500円(B)
元金返済額:(A)−(B)=(C)より
10,000円−4,500円=5,500円(C)
借入金残高:前回借入金残高−(C)より
300,000円−5,500円=294,500円

(単位:円)

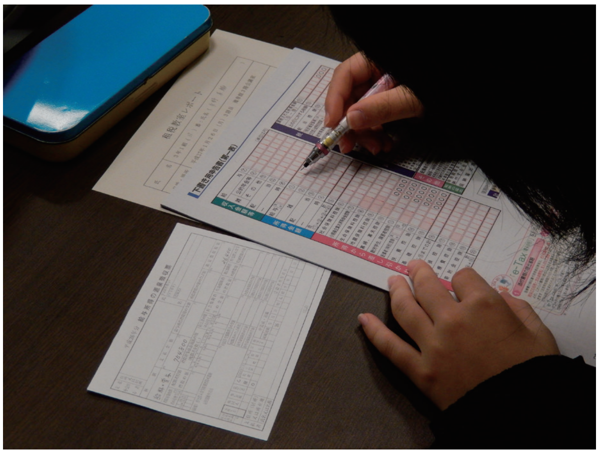
回	月々返済額 (A)	利息額 (B)	元金返済額 (C)	借入金残高 (D)
				300,000
1	10,000	4,500	5,500	294,500
2	10,000	4,417	5,583	288,917
3	10,000	4,333	5,667	283,350
4	10,000	4,250	5,750	277,600
5	10,000	4,162	5,838	271,660
6	10,000	4,074	5,926	265,734
7	10,000	3,986	6,014	259,720
8	10,000	3,895	6,105	253,615
9	10,000	3,804	6,196	247,419
10	10,000	3,711	6,289	241,130
11	10,000	3,616	6,384	234,746
12	10,000	3,521	6,479	228,267
13	10,000	3,424	6,576	221,691
14	10,000	3,325	6,675	215,016
15	10,000	3,225	6,775	208,241
16	10,000	3,123	6,877	201,364
17	10,000	3,020	6,980	194,384
18	10,000	2,915	7,085	187,299
19	10,000	2,809	7,191	180,108
20	10,000	2,701	7,299	172,809
21	10,000	2,592	7,408	165,401
22	10,000	2,481	7,519	157,882
23	10,000	2,368	7,632	150,250
24	10,000	2,253	7,747	142,503
25	10,000	2,137	7,863	134,640
26	10,000	2,019	7,981	126,659
27	10,000	1,899	8,101	118,558
28	10,000	1,778	8,222	110,336
29	10,000	1,655	8,345	101,991
30	10,000	1,529	8,471	93,520
31	10,000	1,402	8,598	84,922
32	10,000	1,273	8,727	76,195
33	10,000	1,142	8,858	67,337
34	10,000	1,010	8,990	58,347
35	10,000	875	9,125	49,222
36	10,000	738	9,262	39,960
37	10,000	599	9,401	30,559
38	10,000	458	9,542	21,017
39	10,000	315	9,685	11,332
40	10,000	169	9,831	1,501
41	1,523	22	1,501	0
合計	401,523	101,523	300,000	—

❷ 右の空欄に記入したら、毎月の支払金額に占める元金と利息の割合の変化について、テキストP.65の表で確認してみよう。

❸ 計算した結果、どういうことがわかるかを記入してみよう。

毎月の返済額が一定なので返済計画が立てやすいことがわかった。返済当初は利息が元金の半分近くを占めていてほとんど利息の返済であることがわかった。

資料８　租税教室（下書き用申告書の記入）



© 金融広報中央委員会 2015

資料９　ワークショップ

1　ワークショップのフローチャート

ワークショップの展開の仕方

1　個人の意見
- 思いついた意見をできる限り付箋紙に書き出す。
- 1枚の付箋紙に一つの意見だけ書く。
- 質問ごとに付箋紙の色を変えると分かりやすい。
- 書き込んだ付箋紙は、手元に置いておく。

2　班別討議
- 班長から順番に付箋紙に書いた意見を読み上げて、画用紙に貼る。このとき、グループ化するため、同じ意見の人は近くに貼る。
- すべての意見が出たら、グループ化したものをマジックで囲み、何についての意見か名前を付ける。

3　整理とまとめ
- 記録係が意見をまとめながら、模造紙に記入する。

2　知識・技能の活用

1　個人の意見

＜考えるための材料＞

Q1：キャッシュフロー表から読み取れる事柄を想像してみよう。
Q2：貯蓄残高が目減りする原因やそれを防ぐ方法について考えてみよう。
Q3：奨学金を借りる前と借りた後で気を付けたらよいことを考えてみよう。

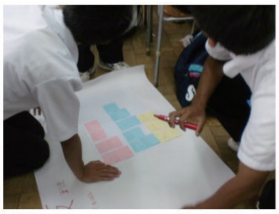
本校の生徒の例

- 奨学金を上手に利用するために借りる前に気を付けること（黄）
  借りた後で気を付けること（緑）
- 長期間に渡る奨学金の返還が生活に与える影響（青）
  その対策（赤）

3　言語活動の充実

2　班別討議

- 班長から順番に付箋紙に書いた意見を読み上げて、画用紙に貼る。このとき、グループ化するため、同じ意見の人は近くに貼る。
- すべての意見が出たら、グループ化したものをマジックで囲み、何についての意見か名前を付ける。



4　学習の振り返り

3　整理とまとめ　　　　4　班別発表

- 記録係が模造紙にまとめる。

まとめているところ

発表しているところ

© 金融広報中央委員会 2015

資料 10 － 1　高校を卒業した翌年の月別収支一覧表（生徒作品）

高校を卒業した翌年の月別収支一覧表　　年　組　番　氏名

（万円）

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
収入	家庭からの給付	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
	アルバイト・給与	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
	奨学金	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	収入計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
支出	授業料／教育費	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	食費	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
	住居・光熱費	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
	保健衛生費	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	4.8
	娯楽・し好費	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	18
	その他の日常費	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	18
	支出計	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	184
	貯蓄残高	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	32

※ 最低賃金　全国平均　1時間 780円（厚生労働省）
　　　　　　愛媛県　1時間 680円（愛媛労働局）　平成26年10月12日以降

資料 10 － 2　奨学金の返還が終了するまでのライフイベント表、キャッシュフロー表（生徒作品）

（万円）

	西暦	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
	○年後	現在	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後	10年後	11年後	12年後	13年後	14年後	15年後	16年後	17年後	18年後	19年後
家族等・年齢	本人	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
	父	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74
	母	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	68	67	68	69	70	71	72	73	74
ライフイベント	今後の目標	大学に進学して、					就職して、														
本人	働く		アルバイト				就職														
本人	学ぶ		愛媛　大学進学																		
本人	スタイル		一人暮らし																		
本人	イベント			免許	ゼミ旅行	就職活動		車購入			結婚	新婚旅行	1人目誕生			幼稚園入学	旅行	車購入	小学校入学		旅行
家族等	父											定年									
家族等	母											定年									
家族等	1																				
	その他																				
収入	家庭からの給付		120	120	120	120															
	アルバイト／給与		36	36	36	36	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290	300	310	320	330	340
	奨学金		60	60	60	60															
	収入合計		216	216	216	216	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290	300	310	320	330	340
支出	授業料／教育費		60	60	60	60										10	10	10	35	30	30
	食費		36	36	36	36	48	48	48	48	72	72	80	80	80	80	90	90	90	90	90
	住居・光熱費		48	48	48	48	48	48	48	48	60	60	65	65	65	65	65	65	65	65	65
	保健衛生費		4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	8.0	8.0	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	娯楽・し好費		18	18	18	18	20	20	20	20	20	20	25	25	25	25	25	25	25	25	25
	イベント費用			30	15	20		70			300	30	30				20	130			30
	その他の日常費		18	18	18	18	18	18	18	18	30	30	35	40	35	35	35	35	35	35	35
	奨学金返還						20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	支出合計		184	214	199	194	158.8	208.8	138.8	138.8	510	240	267	242	237	247	277	352	282	277	307
	年間収支		32	2	17	22	41.2	1.2	81.2	91.2	-260	10	-17	28	43	43	23	-42	38	53	33
	貯蓄残高		32	34	51	73	114.2	115.4	196.6	287.8	27.8	37.8	30.8	58.8	101.8	144.8	167.8	125.8	163.8	216.8	249.8

本表は、日本ファイナンシャル・プランナーズ協会のライフイベント表、キャッシュフロー表をもとに作成したものである。

© 金融広報中央委員会 2015

資料 11 ― 1　ワークショップから生まれた生徒の意見

（1）奨学金を上手に利用するためにはどのようにしたらよいか

（借りる前に気を付けること）

・奨学金は、借金だということを頭に入れておく。
・お金をどこから借りるか、金利がいくらかかるかをしっかり確かめておく。
・本当に必要かどうか、利用目的をしっかり考えて借りる。
・お金を借りることは、自分のライフプランに大きく関わってくることを理解する。
・返還シミュレーションを行い、月賦返還額や返還期間を確認する。

（借りた後で気を付けること）

・収入が安定した仕事に就く。
・節約生活に心掛ける。
・貯金や預金など貯蓄をする。奨学金専用の通帳を作り、先取り貯蓄を実践する。
・小遣い帳や家計簿をつけて無駄を省く。
・余剰資金の一部を投資に充て運用する。

（2）長期間に渡る奨学金の返還が生活に与える影響とその対策について

（影　響）

・生活にゆとりがなくなる。
・精神的に余裕が持てない。（例）けがや病気などで入院すると、収入が減るという心配がでてくる。
・お金を思うように使えない。（例）海外旅行を国内旅行に変える。外食の回数を減らす。
・欲しいものを我慢する。
・新たにローンを組むことに抵抗がある。（例）子どもの教育費にお金をかけられない。

（対　策）

難
・収入を増やす方法を考える。
・支出を減らす方法を考える。
・ライフイベントの時期の見直しや内容の修正（金額を縮小）をする。
・収入が安定した職に就く。離職しない。

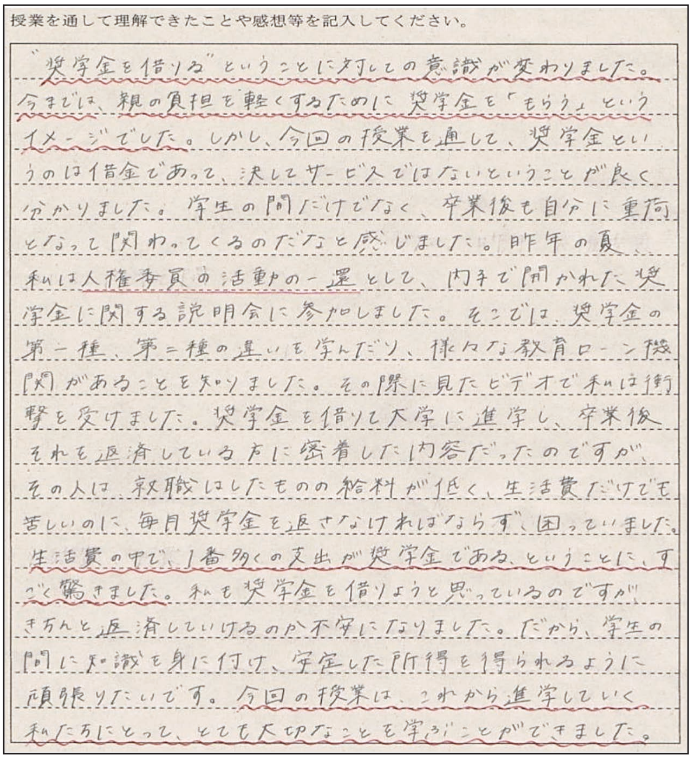
© 金融広報中央委員会 2015

資料 11 − 2　ワークショップ実施後の生徒の感想

（1）ワークショップを通して感じたことや理解したこと

- 「収入−貯蓄＝支出」という“先取り貯蓄”を実践して、返還が滞らないようにしたい。
- 奨学金を借りてまで行きたい大学かどうかをよく考えてみたい。
- 返還総額が大きく、長期に渡る返済になるためストレスになる。
- 奨学金を借りることに対しての意識が変わった。
- 自分の将来についてよく考えることができた。
- 奨学金の利便性と恐怖を感じた。
- お金は使ってこそ価値を生み出すという。上手に使って、資産を増やしていきたい。
- グループワークでは、自分一人では気が付かない色々な意見を聞くことができた。

（ある生徒の感想）


授業を通して理解できたことや感想等を記入してください。

"奨学金を借りる"ということに対しての意識が変わりました。今までは、親の負担を軽くするために奨学金を「もらう」というイメージでした。しかし、今回の授業を通して、奨学金というのは借金であって、決してサービスではないということが良く分かりました。学生の間だけでなく、卒業後も自分に重荷となって関わってくるのだなと感じました。昨年の夏、私は人権委員の活動の一還として、内手で開かれた奨学金に関する説明会に参加しました。そこでは、奨学金の第一種、第二種の違いを学んだり、様々な教育ローン機関があることを知りました。その際に見たビデオで私は衝撃を受けました。奨学金を借りて大学に進学し、卒業後それを返済している方に密着した内容だったのですが、その人は、就職はしたものの給料が低く、生活費だけでも苦しいのに、毎月奨学金を返さなければならず、困っていました。生活費の中で、1番多くの支出が奨学金である、ということに、すごく驚きました。私も奨学金を借りようと思っているのですが、きちんと返済していけるのか不安になりました。だから、学生の間に知識を身に付け、安定した所得を得られるように頑張りたいです。今回の授業は、これから進学していく私たちにとって、とても大切なことを学ぶことができました。

（2）ライフイベント表、キャッシュフロー表の作成で感じたこと

- キャッシュフロー表を作る際、実際の消費支出額を予想するのが難しかった。
- 自分の思い通りに支出をすると、お金が足りなくなり困った。
- 支出を減らすにしても、経験がないのでどれくらい節約できるかが分からず、曖昧な数字しか書くこと ができなかった。
- キャッシュフロー表を作ったとき、結婚費用や出産費用、教育費に沢山のお金が必要になることを知って驚いた。私も、親にこれほどの大金を使って育ててもらったのだと実感した。
- 高校３年生は、これからの人生を大きく左右する大切な時期でもあるので、将来の自分についてシミュレーションしながら色々考えることができた。
- 親からの仕送りが生活費の大部分を占めることがわかった。親孝行のためにも、大学でしっかり勉強して、収入の安定した職業に就きたい。

© 金融広報中央委員会 2015

資料 12　検定試験に挑戦

受験番号

第29回（平成26年度）

商業経済検定試験問題

〔経済活動と法〕

解答上の注意

1．この問題のページは2から16までです。
2．解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
3．問題用紙の表紙に受験番号を記入しなさい。
4．文字または数字で記入するもの以外はすべて記号で答えなさい。
5．選択問題Ⅰ〔企業活動に関する法〕・選択問題Ⅱ〔社会生活に関する法〕は２分野のうち１分野を解答すること。２分野を解答した場合は，選択問題すべてを無効とします。
6．計算用具や六法全書などの持ち込みはできません。
7．制限時間は60分です。

※　試験終了後，問題用紙も回収します。

公益財団法人　全国商業高等学校協会

8　次の文章を読み，問いに答えなさい。

　最近，大学や短大，専門学校へ進学する際，奨学金制度を利用する人が多くなっている。そこで，独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度についてみてみよう。

　この奨学金制度には，無利息と利息付の２種類の奨学金がある。利息付のものは国からの補助もあり，利率は年３分を上限としているうえ，在学中および返還期限猶予中は無利息である。そのため，民間金融機関の学資ローンを利用する際の(a)貸し主である金融機関と借り主が契約で任意に決める利率や返済条件と比べ，奨学金制度は利用しやすいものとなっている。

　ただし，利用する際に注意しておくことがある。まず，申し込む際に人的保証制度か機関保証制度を選択しなくてはならない。人的保証制度を選択する場合は(b)連帯保証人と保証人を選任する必要がある。また，機関保証制度を選択する場合は毎月の奨学金から一定額の保証料を保証機関に支払う必要がある。貸与終了後は返済が開始されるが，延滞が続く場合，保証機関は求償権を行使し，悪質な場合(c)直接強制により，強制的に返済させる可能性もあるという。

　さらに，継続して利用する場合，年度ごとに適格認定を受ける必要がある。適格認定の結果には６種類の区分があり，そのなかには(d)卒業延期が確定した場合は，奨学金制度の契約の効力を消滅させ，奨学金が交付されなくなる措置となるものもある。

　奨学金制度を利用する場合，これらのことを事前に理解しておくことが望ましい。進学費用のめどが立たず進学をあきらめていた人は，この制度によって，進学の機会を得ることができる。個々によって状況は異なるが，自ら望み，学ぶ機会を得ることができた人は，進学後も夢や希望の実現に向け，しっかり学んでほしい。

問１．下線部(a)を何というか，次のなかから正しいものを一つ選びなさい。
ア．表面利率　　イ．約定利率　　ウ．法定利率

問２．下線部(b)の説明として，次のなかから最も適切なものを一つ選びなさい。
ア．主たる債務者が債務を履行しない場合に，債務者に代わって，債務を履行する義務を負う。なお，催告の抗弁権や検索の抗弁権をもつ。
イ．主たる債務者と並んで債務を負う。つまり，催告の抗弁権や検索の抗弁権はもたないため，債権者から主たる債務者と同じように債務の履行を請求される。
ウ．複数の債務者が，それぞれ債務全体について履行の責任を負う。ただし，債務者相互のあいだには，一定の負担部分が決められている。

問３．下線部(c)の説明として，次のなかから適切なものを一つ選びなさい。
ア．裁判所の手によって債務者の財産を差し押さえて，これを競売して返済させる。
イ．裁判所の「返金しなさい」という命令により，債務者へ心理的圧迫を加えることで返済させる。
ウ．裁判所は第三者になすべき行為を行わせ，その費用を債務者から第三者に返済させる。

問４．下線部(d)のような条件を何というか，次のなかから正しいものを一つ選びなさい。
ア．停止条件　　イ．不能条件　　ウ．解除条件

出典：公益財団法人　全国商業高等学校協会「商業経済検定試験問題」平成 26 年度

© 金融広報中央委員会 2015